

編集発行責任者 吉田 和彦

〒125-8506 東京都葛飾区青戸6-41-2

TEL:03-3603-2111 (代表)

URL:<http://www.jikei.ac.jp/hospital/katsushika/>E-mail:[aotokouhou@jikei.ac.jp](mailto:aotokouhou@jikei.ac.jp)

## INDEX

01. 診療科紹介(外科)、診療科紹介(脳神経外科)
02. 診療科紹介(循環器内科)、診療科紹介(糖尿病・代謝・内分泌内科)、公開セミナーの延期について
03. 生活不活発病を防ぎましょう
04. 部署紹介(中央検査部)、看護専門外来 開設のお知らせ  
医療連携フォーラム2020の中止について

## 診療科紹介

## ● 診療科紹介 外科

## 外科。どんな病気を診ているの？

外科は、皆様の病気に対して手術を施行して治療をしている科です。ホームページに記載してあるように2019年度の手術件数は1145件、平均在院日数11.5日でした。手術の内訳は、がん領域が主たる疾患ですが、癌腫別にみると、乳がん152件、肺がん46件、胃がん50件、大腸がん140件、膵がん(IPMN含む)23件、肝がん(転移性肝がん含む)28件でありました。小児外科は主に、ヘルニア、停留睾丸、漏斗胸などに対して87件の手術を、また、一般的な良性疾患でありますヘルニア、アッペは、約200件の手術を施行させていただきました。昨年度からの取り組みとして、自然気胸に対しては若年老年に関わらず、広く手術をしかもスピーディーに施行させていただき30件、高齢者で頻度の増している直腸脱に対しましても、約20件の手術を行い、皆様から非常に高い満足度を頂いております。医療センターの患者さんの80%を占める葛飾区の人口は現在35万人、2025年頃までは現在と同程度の人口規模で推移すると見込まれていますが、それ以降は漸減、年少人口は5万人で推移しますが、老年人口は10万から12万へ、生産年齢は29万から26万人へ減少すると見込まれます。そこで、2019年度から、EPASSを活用した高齢者手術症例のリスク評価、手術管理、緩和ケア等々に積極的に外科が参画し、高齢者をリスペクトし、高齢者に優しい医療を心掛けております。臨床研究等々も、近隣に立脚したテーマを拾い上げながら計画していきたいと考えております。最後に、当科は吉田院長のおひざ元であります。葛飾医療センターのスローガン＝「地域と共生し進化・創造し続ける病院」総合診療体制・救急医療体制を強化し地域密着型病院を目指す。を、遵守し、堅実に努力いたす所存でございます。今後とも皆様に、より一層のご鞭撻をお願いする次第でございます。

外科 診療部長  
小川 匡市

## ● 診療科紹介 脳神経外科

脳腫瘍、脳血管障害、神経外傷、機能的疾患、脊椎・脊髄疾患などが主な対象疾患です。低侵襲な手術方法、例えば、血管内手術による脳動脈瘤、内頸動脈狭窄症、急性期脳梗塞の血栓回収、神経内視鏡による水頭症の治療などを積極的に取り入れています。特発性正常圧水頭症の治療にも力を入れており、毎週月曜日に専門外来を行っています。また、脊椎・脊髄疾患では変形性頸椎症や腰部脊柱管狭窄症などの変性疾患はもとより、脊髄腫瘍、脊髄空洞症、動静脈奇形などの手術、難治性の痛みに対する脊髄刺激治療、圧迫骨折に対する経皮的椎体形成術も行っています。診療体制は、脳神経外科専門医4名を含む5名の常勤医師で診療しておりますが、必要に応じてスペシャリストを招き、外来診療、手術治療を行っています。手術適応や治療方針はスタッフ全員で繰り返し検討し、患者様に十分説明して患者様が納得のいく治療を行うよう心がけています。

脳神経外科 診療部長  
長島 弘泰

## 実績

外来患者数:約500人/月、2019年手術件数:約200件(脳腫瘍:25件、脳血管障害:18件、頭部外傷:31件、血管内手術:40件、脊椎・脊髄疾患:24件、脳深部刺激治療・脊髄刺激治療:5件、水頭症:42件など)

## 診療科紹介

### ● 診療科紹介 循環器内科

#### ● 心不全パンデミック、カルディオ・オンコロジーとコロナ

日本では高齢化とともに、心不全患者数は現在100万人を超えて増え続け、2025年には130万人に達し“心不全パンデミック”と言われています。75歳以上では循環器疾患が死因の第1位です。高血圧や、糖尿病、脂質異常などの心疾患のリスク保有の段階からの対策が重要ですが、虚血性心疾患や弁膜症、不整脈に対しては、早期に適切な治療を行い、心不全への進展予防が鍵となります。またがん患者数も、その高齢化と生存率の上昇による増加はみられ、がん生存者は500万人以上にのぼります。抗がん剤や放射線治療の影響による心疾患、特に心不全の発症など、がん患者さんの循環器医療が問題となっています。アントラサイクリン系薬剤やトラスツズマブ治療下の、心機能低下による心不全などが知られていますが、免疫チェックポイント阻害薬にも稀に心筋炎が起こることがあります。がん治療と心臓への治療の両立が望まれます。新型コロナウイルスも一部の症例で心臓MRIに異常所見が認められ、心機能低下がみられるなどの報告もあり、どのような後遺症が出てくるか、今後益々注意していかなければなりません。慈恵医大高飾医療センターの循環器内科は、東京都CCUネットワークの加盟施設として、あらゆる循環器疾患に対応しています(心臓外科除く)。CCUベッドも4床より5床に増床し、365日24時間カテーテル治療ができる体制をとっています。虚血性心疾患に対してはステント治療の他、高度石灰化病変にはロータブレードという装置を用いた治療も導入予定となっています。心房細動などの不整脈に対するカテーテル・アブレーション(焼灼術)は年間約300例施行し、都内でも有数の豊富な症例数を経験しています。これらの活動は全て、救命と心不全パンデミック克服を使命として行っております。外来では心不全認定看護師による生活指導など再発に努めています。集中治療室や病棟では医師・看護師・薬剤師・臨床工学士・理学療法士など様々な職種スタッフとともにカンファレンスを行い、安全かつ最善の医療の遂行を心掛けています。循環器及びその周辺症状などでご不明な点があれば、重症・軽症に係らずご相談下さい。



循環器内科 診療部長  
関 晋吾

### 実績

2019年度 月平均外来患者数1358人、入院患者数1128人、総カテーテル件数915例、冠動脈撮影診断401例、カテーテル冠動脈形成術216例、カテーテル・アブレーション298例、ペースメーカー植え込み術57例

### ● 診療科紹介 糖尿病・代謝・内分泌内科

糖尿病・代謝・内分泌内科は糖尿病、高血圧症、脂質異常症をはじめとする生活習慣病と内分泌疾患を対象としています。特に糖尿病につきましては、近隣の医療機関と連携し、患者の初期教育から、多くの上市されている糖尿病治療薬に関する相談、及び治療の実践。入院、外来インスリン注射の指導、導入およびGLP-1受容体作動薬の注射の指導、導入にいたるまで幅広く対応します。原則的にはかかりつけ医の診療を継続しながら、専門的に対応しなければならない領域のみこちらで対応させていただくこともできますので、ご紹介いただく先生方にも患者様にもご不安、ご心配のない対応を取らせていただきます。糖尿病教育に関しては糖尿病専門医、糖尿病療養指導士をはじめ、患者指導に熟練した管理栄養士、薬剤師、検査技師など多職種メンバーで構成されたチーム医療でコントロール困難な患者を治療のみでなく生活習慣改善の面からサポートします。また、より高度な糖尿病治療にも対応しており、CGM(24時間血糖持続測定)やFGM(フラッシュグルコースモニタリングシステム)を用いたきめ細かな血糖変動の解析ができるとともに、1型糖尿病に対するインスリンポンプによる治療もおこないます。一方、当科は妊娠糖尿病、糖尿病合併妊娠の治療経験に長けており、当院産婦人科と協力して妊娠中の細かい血糖管理を行います。糖尿病の合併症に対しても、急性期の糖尿病性ケトアシドーシス、低血糖昏睡はもちろんのこと、慢性合併症の糖尿病網膜症、糖尿病性腎臓病、糖尿病性神経障害、心血管疾患、脳卒中に対しても当院眼科、腎臓・高血圧内科、循環器内科、脳神経内科、脳神経外科と連携して合併症の管理を積極的に進めております。また、内分泌疾患は脳下垂体疾患、甲状腺疾患、副腎疾患を中心に負荷試験を含めた入院精査および外来治療に対応します。手術を必要とする内分泌疾患に対しては脳神経外科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、内分泌外科、泌尿器科と連携して治療を進めることができます。



糖尿病・代謝・  
内分泌内科 診療部長  
横田 太持

## 公開セミナーの延期について

公開セミナーの開催を延期いたしました。

2020年9月12日(土)に当医療センター5階講堂にて、第55回高飾医療センター公開セミナーが開催予定でしたが、新型コロナの影響で延期となりました。

**次年度の開催を予定させていただきます。**

詳細が決まりましたら改めてご連絡させていただきます。



# 生活不活発病を防ぎましょう! ●リハビリテーション科 白井友一

新型コロナウイルスの流行によって、屋外の活動機会が少なくなっています。散歩や買い物、ジムのスポーツ、地域のサークル活動やリハビリ、友だちとのおしゃべりなど、普段していることを我慢しなくてはならない状況になっています。こうした状況が続くと、いつもできていたことが、いつのまにかできなくなったり、体力がなくなったり、気分が落ち込んだり、記憶力が悪くなったりしてしまいます。これを“生活不活発病”（せいかつふかっぱつびょう）といいます新型コロナウイルスから身を守りながら、生活不活発病にならないためには、“運動”や“生活活動”が大切です。どれも“家の中”や、軒先や庭などの“家の周囲”で可能です。ぜひ取り組んでみてください。

## 普段は外をおひとりで活発に歩いている方



### スクワット

10～15回 ×  
1～3セット



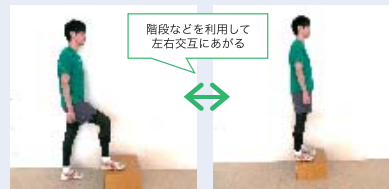
### かかと上げ

左右それぞれ  
5～15回 ×  
1～3セット



### 大股踏みだし

左右交互に  
10～20回 ×  
1～3セット



### 踏み台運動

左右交互に  
20～30回 ×  
1～3セット

## 外は歩けないけれど、家の中なら歩ける方



### 立ち座り

5～15回 ×  
1～3セット



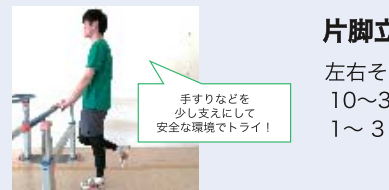
### かかと上げ

5～15回 ×  
1～3セット



### スクワット

10～15回 ×  
1～3セット



### 片脚立ち

左右それぞれ  
10～30秒 ×  
1～3セット

## 歩けないけれど、椅子や車椅子に座れる方



### ばんざい運動

10～15回 ×  
1～3セット



### 交互足踏み

左右交互に  
20～100回



### 膝のばし

左右それぞれ  
10～15回 ×  
1～3セット



### 立ち座り

5～15回 ×  
1～3セット

## 部署紹介(中央検査部)

「中央検査部」が行っている業務は、採血・採尿・心電図・心臓超音波・呼吸機能・脳波・筋電図検査等です。患者さんに馴染みのある血液検査や尿検査を担当し、迅速な結果報告に努めています。2020年は新型コロナウイルスの感染が広がり、「中央検査部」においても新規にPCR検査と抗原検査に対応できるように準備を進めています。「中央検査部」は臨床検査技師(国家資格)23名で運営されています。検査技師は血液・生化学・尿一般・生理(心電図等)・微生物・輸血の各検査部門に数名ずつ配属され、認定資格を有した専門性の高い業務を行っており、検査業務以外にも患者支援としてNSTやICT、糖尿病教室へ参画しています。他に、関連医療機関との連携として、心臓超音波検査や脳波検査等を受け付けておりますので是非ご利用下さい。



中央検査部  
歳川伸一技師長

## 看護専門外来 開設のお知らせ

この度、看護専門外来を開設いたします。相談者が身近に活用できる診療支援・生活支援を目的に開設いたしました。

症状コントロールや病状経過に関する質問や入院前後の生活に関連する相談について、是非、ご活用ください。

がん治療、認知症家族相談から開始し、腎不全看護、心不全看護など、順次開始していく予定です。各分野のスペシャリストが専門的な知識と技術の提供に努めます。



### 看護専門外来の メリット

- 問題解決につながる
- 相談しやすい
- 質問しやすい

### 相談支援体制

- ① 認知症患者・家族相談 ● 月曜日… 13時30分～16時30分
- ② がん化学療法、乳がん看護に関する相談 ● 金曜日・土曜日… 13時30分～16時30分
- ③ がん相談 ● 土曜日… 13時30分～16時30分

入退院・医療連携センター 認知症看護認定看護師 石田

### お問い合わせ先

場所 ▶ (1階)カフェド・クリエ横(花屋跡地)

運用開始 ▶ 10月予定

## 医療連携フォーラム2020の開催を中止いたします。

2020年11月14日(土)に当医療センターにて、医療連携フォーラム2020が開催予定でしたが、新型コロナの影響で中止となりました。次年度の開催を予定させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

